



防コミの歩き方



まちぐるみで地震・津波に備えよう!

●要援護者対策を訓練に導入

長田区南東部の沿岸部に位置する真野防コミ(真野地区防災福祉コミュニティ)のエリアは、南海トラフ地震時に一部の区域で浸水が危惧されています。平成23年の東日本大震災を受け、津波からの避難が注目される中、真野防コミでは、平成10年の結成以来毎年続けてきた総合防災訓練に平成23年、初めて要援護者を含めた津波避難訓練を取り入れました。

真野地区では阪神・淡路大震災以降、要援護者をまちぐるみで助けようとの共助の考えが深く根付いており、平成23年以前より要援護者対策が検討されてきました。まず民生委員が見守り対象の高齢者宅等を訪問し災害時要援護者の登録を呼びかけました。その結果、平成22年10月時点で324人の登録を得ることができました。その後、長田区在宅福祉センター、真野防コミ、自治会役員、民生委員等の協力の下、町丁ごとに支援者と要援護者とのマッチング作業がおこなわれ、最終的には100%のマッチングが完了しました。

●訓練の内容

真野防コミでは、平成28年12月に地震と津波災害を想定した地域おたすけガイドが作成され、おたすけガイドの検証も兼ねて本年3月18日に恒例の総合防災訓練が実施され、「見守り隊員」と称されるマッチング支援者が訓練開始と同時にそれぞれの要援護者宅を訪れ安否確認をおこない、訓練に参加可能な方と一緒に町丁ごとに設置された一次避難所(14カ所)に避難し避難者



名簿に記入後、健常者らと一緒に総合防災訓練が実施される南尻池公園へ移動しました。

南尻池公園では運営本部が立ち上げられ避難者の受け入れ訓練をおこないました。

マッチング支援者は、安否確認票を避難先に設置されたボードに貼り付け、確認状況が一目でわかるようになっており、その後は開会式のあと、消火・救出・救護・炊き出し等各種訓練が実施されました。

●今後の課題

年々高齢者が増え、今後も要援護登録者が増えることが予想されます。

今後も避難訓練を繰り返し、見直しながら継続して取り組んでいくことが必要です。



(長田消防署 甲斐康之)